学校番号	105

令和８年度　外国語科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名・副教材名
外国語	英語演習Ⅰ	2	2	TREASURE HUNT 1 TREASURE HUNT 2

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

文法の知識を土台としながら「聞く・読む・書く・話す（やり取り・発表）」をバランスよく使いこなす統合的な英語力の向上を目指します。まずは文法を「文章のルール」として正しく読む・聞くことから始め、そこで得たインプットを単なる知識で終わらせず、自分の考えを正確に書く、そして相手に伝わるように話すといったアウトプットへとつなげていく。5 つの領域をバラバラに学ぶのではなく、一つの文法事項を多角的に活用する練習を繰り返すことで、英語で自分を表現できる力を身に付けましょう。"From 'knowing' to 'speaking'." 「『知っている』から『話せる』へ」

2 学習の到達目標（「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標）

【第〇学年】

領域	聞くこと	読むこと	話すこと （やり取り）	話すこと （発表）	書くこと
学習到達目標	学んだ文法事項（完了形や関係代名詞など）を含む音声を聞き、情報の前後関係や話し手の意図を正確に聞き取ることができる。	文構造（SVO 等）を素早く分析し、初見の文章でも論理展開を把握しながら、必要な情報を正確に読み取ることができる。	学習した「型」を使い、身近な話題について、相手の反応に応じて即興で質問したり答えたりすることができる。	特定の文法項目を用いて、自分の経験や考えを論理的に構成し、他者に伝わるよう一貫性を持って発表できる。	学んだ語彙や文法を適切に組み合わせ、自分の意見やその理由を、正確かつ明快な英文で記述できる。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	各ユニットの重要文法や語彙を正しく理解し、英文の構造を正確に把握できる。 学んだ「型」を用いて、意味の通じる正しい英文を構成できる。	文法知識を活用して、文章の論理展開や話し手の意図を的確に判断・推測できる。 自分の考えや感情を、場面や目的に応じた適切な文法・表現を選択して発信できる。	「コミュニケーション活動」に積極的に参加し、既習の文法を粘り強く使おうと試みている。 CAN-DO リスト等を用いて自らの理解度を把握し、課題解決に向けて学習方法を工夫しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまり（領域）ごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	課 “題材名”	領域	評価規準	評価方法
1学期	TREASURE HUNT 1 Unit 1〜5	聞くこと	a: 時制や助動詞が示す状況を正確に聞き取ることができる。 b: 聞き取った情報を整理し、その後の行動や状況を推測・判断できる。 c: 完了形や助動詞などを頼りに、粘り強く意味を掴もうとしている。	・授業での取り組み ・課題などの提出状況 ・評価問題
		読むこと	a: 文の種類や時制（完了形）の構造を理解し、内容を正しく把握できる。 b: 時間経過や筆者の確信度（助動詞）を分析し、論理の展開や要点を見極めることができる。 c: 既習の文法知識をもとに、どの話題にも積極的に目を通そうとしている。	
		話すこと やり取り	a: 質問に対し時制・助動詞を使い分けて答えたり、やり取りしたりできる。 b: 相手の反応に応じて、自分の気持ちや判断を調整して伝えることができる。 c: 自分の声や表情、既習の表現を活用し、自分の思いを届けようとしている。	
		書くこと	a: 適切な時制と助動詞を用いて、構造的に正しい英文を書くことができる。 b: 場面や目的に合わせ、最適な時制を判断し、考えを正確に記述できる。 c: 辞書や教科書を活用しながら、一文を書き上げようとしている。	
	中間考査			
	Unit 6〜10	聞くこと	a: 受動態や準動詞を含む表現を聞き取り、事実関係を正確に把握できる。 b: 音声情報を元に、論理的に判断し、結論を導き出すことができる。 c: 重要語句や文法のヒントを頼りに、最後まで聞き取ろうとしている。	・授業での取り組み ・課題などの提出状況 ・評価問題
		読むこと	a: 受動態や準動詞の構造を見極め、意味を正しく理解できる。 b: 動作の主体と対象を整理し、筆者の意図や実験結果を正確に読み取れる。 c: 専門的なトピックに対しても、内容を理解しようと読み進めている。	
		話すこと 発表	a: 自分の意見や提案を整理して発表できる。 b: 観察や推理の結果を、受動態を使って客観的に示したり、不定詞を使って目的を明確にしたりしながら、説得力のある構成で伝えられる。 c: 自分の考えが伝わるよう、学んだ表現を活かしてスピーチを完成させようとしている。	
		書くこと	a: 自分の健康習慣や生物の観察事実について、受動態や準動詞を組み合わせて、文法的に正しい英文を書くことができる。 b: どの準動詞を使うのが最適かを判断し、一貫性のある文章を記述できる。 c: 自分の観察したことや考えを着実に書き上げようとしている。	
	期末考査			
2学期	Unit 11〜15	聞くこと	a: 比較表現や接続詞に注意して、数値や事実関係を正確に聞き取れる。 b: 聞き取った数値やニュースの内容を比較・分析し、現状の課題（環境問題等）や今後の予測を論理的に判断できる。 c: キーワードや文法の合図を逃さず、集中して聞こうとしている。	・授業での取り組み ・課題などの提出状況 ・評価問題
		読むこと	a: 環境や文化遺産に関する英文で、関係代名詞などの修飾関係を理解し、グラフや表と本文の情報を照らし合わせて正しく理解できる。 b: 寓話の教訓や異なる価値観を読み解き、接続詞や比較表現を根拠にして、筆者の主張や社会的背景を多角的に分析できる。 c: 初見のトピックや長い文章に対しても、意欲的に取り組んでいる。	
		話すこと やり取り	a: 自分の価値観や環境活動について、間接疑問文や比較を用いて、理由を添えながら相手と意見を交換できる。 b: グラフやニュースのデータに基づき、相手の質問に対して「なぜそう思うか」を比較や接続詞を使って即興で根拠を持って答えられる。 c: 関係詞を使って単語を補足説明するなど、やり取りを続けようとしている。	
		書くこと	a: グラフから読み取った事実や環境問題の解決策について、接続詞や関係代名詞を用いて、論理的で正確な英文を書くことができる。 b: 複数の意見や価値観を比較し、間接疑問文で問題提起を行うなど、読み手を説得するための文法選択を行い、自分の考えを記述できる。 c: 辞書やモデル文を参考にしながら、より詳細で説得力のある文章を自力で完成させようとしている。	
	中間考査			
	TREASURE HUNT 2 Unit 1〜5	聞くこと	a: 文型や時制（完了形）に注目して、詳細な事実や状況を正確に聞き取れる。 b: 短い対話や説明を聞き、that 節を用いた発言から「誰が何を信じているか/考えているか」という話者の意図を的確に判断できる。 c: 文法的な手がかりを頼りに、必要な情報を最後まで聞き取ろうとしている。	・授業での取り組み ・課題などの提出状況 ・評価問題
		読むこと	a: 文型や that 節の構造を理解し、文の意味を正確に把握できる。 b: 完了形が示す背景を分析して、文章の要点や教訓を論理的に抽出できる。 c: 医療などの専門的な語彙が含まれる文章に対しても、既習の文法を活用し、内容を理解しようとしている。	

		話すこと 発表	a: 文型を正しく使い分け、一貫性のある構成で発表できる。 b: 医療の重要性やコミュニケーションの工夫について、聞き手に分かりやすい順序で提示できる。 c: 自分の信念や願いを込めた表現を積極的に発表に取り入れている。	
		書くこと	a: 適切な文型を用いて、文法的に正しくまとまった文で書くことができる。 b: that 節「〜することが大切だと思う」を使って解決策を論理的に構成し、記述できる。 c: 複雑な文型（SVOC 等）に挑戦し、高度な表現をさせようと努力している。	
	期末考査			
3 学期	Unit 5〜10	聞くこと	a: 日常シーンで、助動詞や不定詞を用いた依頼・説明を正確に聞き取れる。 b: ディスコースマーカー（However, Therefore 等）をヒントに、話の展開を予測しながら聴解できる。 c: 複雑なやり取りでも、必要な情報を粘り強く聞き取ろうとしている。	・授業での取り組み ・課題などの提出状況 ・評価問題
		読むこと	a: 人物の歴史や福祉に関する英文で、一文の因果関係を正しく把握できる。 b: 動名詞や不定詞が示す「行為の目的や感情」を分析し、深く読み解ける。 c: 専門的なテーマに対し、未知の情報を自力で理解しようとしている。	
		話すこと	a: 不定詞や助動詞を使い、目的や要望を明確にしたやり取りができる。 b: 「誰が何をどう変えたか」といった複雑な状況を整理して伝えられる。 c: 対話を途切れさせずに継続しようとする意欲を見せている。	
		書くこと	a: 文法的に正確で豊かな内容の英文を書くことができる。 b: 物語の教訓や福祉への考えを論理的に繋ぎ、説得力のある記述ができる。 c: 辞書やモデル文を活用して、英文を完成させようと努力している。	
	学年末考査			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度